



# はいさい

第191号  
令和4年12月23日

編集企画・発行  
沖縄防衛局 総務部報道室

沖縄防衛局ホームページ



〒904-0295 嘉手納町字嘉手納290番地9 TEL(098)921-8131 <https://www.mod.go.jp/rdb/okinawa/>

## 松野内閣官房長官訪沖



知念那覇市長との面談

松野内閣官房長官が、令和4年12月3日から4日の日程で沖縄を訪れました。  
12月3日、知念那覇市長との面談を行い、翌4日には、松本浦添市長と面談、松川宜野湾市長との面談を行いました。



松本浦添市長との面談



松川宜野湾市長との面談

### 目次

### CONTENTS

- ◆ 松野内閣官房長官訪沖…………… 1
- ◆ 第28回沖縄防衛局防衛セミナー…………… 2
- ◆ 那覇港湾施設移設に関する協議会(第29回)…………… 4
- ◆ 令和4年度日米共同統合演習(キーン・ソード23)…………… 5
- ◆ 災害準備及び災害対応のための在日米軍の施設及び区域への限定された立入りについての現地実施協定等の署名式典… 6
- ◆ 令和4年度 防衛大臣感謝状の贈呈について…………… 7
- ◆ 金武町伊芸区における地震・津波避難訓練について…………… 7
- ◆ キャンプ・ハンセンにおける合同津波避難訓練について…………… 8
- ◆ はいさい編集後記…………… 8

# 第28回沖縄防衛局防衛セミナー

～ロシアによるウクライナ侵略後の  
東アジアの安全保障～

日時：令和4年11月29日(火) 17:30～20:00  
場所：沖縄県立博物館・美術館(おきみゅー) 講堂  
基調講演 「ロシアによるウクライナ侵略の衝撃」  
第1部 「ウクライナ侵略がもたらした安全保障上のインパクト」  
第2部 「ウクライナ侵略後の東アジアの安全保障」

入場無料  
定員100名  
事前申込制

基調講演・コーディネーター  
防衛研究所防衛政策研究部長  
兵頭 慎治



パネリスト  
明海大学教授  
小谷 哲男



パネリスト  
政策研究大学院大学教授  
若間 陽子



パネリスト  
防衛研究所地域研究部長  
門間 理良



パネリスト  
慶応義塾大学教授  
待保 謙



### 【新型コロナウイルス感染症予防対策】

・受付時に手指消毒及び体温測定を実施します。体温が37.5度を超える場合、風邪等の症状がある場合は入場することができません。  
・会場内でのマスクの着用(できれば不織布)をお願いします。  
・新型コロナウイルス感染症発生時に備え、参加者が特定できるよう参加者名簿(氏名、電話番号等)を作成します。名簿情報は、同感染症が発生した場合の保健所等公的機関への提供及び参加者への連絡以外に使用することはありません。  
・その他、感染防止のために主催者が決めた措置及び指示等の遵守にご協力願います。  
・新型コロナウイルス感染症拡大の状況によっては、セミナーの開催を中止させていただく場合があります。また、パネリストについても変更等の場合があります。その場合は、当局ホームページでお知らせいたします。

QRコードまたは沖縄防衛局HPから登録が必要です。

申込



【主催】防衛省沖縄防衛局  
【お問い合わせ先】沖縄防衛局企画部地方調整課地方協力確保室  
【電話番号】098-921-8131(内線番号466)

【締切11/18(金)】

# 第28回 沖縄防衛局防衛セミナー

コロナ禍の影響により約3年ぶりの開催となりましたが、感染症対策をしっかりと行い、11月29日、沖縄県立博物館・美術館(那覇市)において第28回沖縄防衛局防衛セミナーを開催しました。

今回の防衛セミナーは、多くの方が興味・関心を持ちご来場していただけるよう、「ロシアによるウクライナ侵略後の東アジアの安全保障」をテーマに5名の講師をお招きし、基調講演、第1部及び第2部の3部構成としたパネルディスカッション形式での開催としました。

## 基調講演

基調講演では、防衛省防衛研究所防衛政策研究部長兵頭慎治氏から「ロシアによるウクライナ侵略の衝撃」をテーマに、国際社会が直面する衝撃、ウクライナ侵攻の狙い、NATO 拡大、日露関係の影響等について、スクリーンの資料を使いながら具体的にわかりやすく講演していただきました。



防衛省防衛研究所防衛政策研究部長 兵頭慎治氏



基調講演の様子

## 第1部・第2部



コーディネーター  
防衛省防衛研究所防衛政策研究部長 兵頭慎治氏



第1部及び第2部のパネルディスカッションの様子



パネリスト  
明海大学教授 小谷哲男氏  
防衛省防衛研究所地域研究部長 門間理良氏



パネリスト  
政策研究大学院大学教授 岩間陽子氏  
慶應義塾大学教授 神保謙氏

第1部では「ウクライナ侵略がもたらした安全保障上のインパクト」と題し、政策研究大学院大学教授岩間陽子氏から「欧州の安全保障に与えたインパクト」について、また、慶應義塾大学教授神保謙氏から「東アジアの安全保障に与えたインパクト」について報告をいただきました。

第2部では「ウクライナ侵略後の東アジアの安全保障」と題し、明海大学教授小谷哲男氏から「米中関係の現状と展望」について、また、防衛省防衛研究所地域研究部長門間理良氏から「中台関係の現状と展望」について報告をいただきました。

全体討議では、来場者の質問に対する回答とともに活発な議論が行われました。

当日は、定員100名のところ、ほぼ満席となる方々が来場され、セミナー後の来場者アンケートでは「わかりやすく良かった」「世界情勢について勉強になった」「もっと時間がほしかった。」など大変好評をいただきました。

当局では、防衛政策や自衛隊の活動等について、国民の皆様にご理解をいただけるよう、今後も防衛セミナーを開催して参ります。

なお、今回開催しました防衛セミナーの動画を令和5年1月19日まで配信いたしますので、QRコードまたは沖縄防衛局のホームページからご覧ください。

● 沖縄防衛局ホームページアドレス  
<https://www.mod.go.jp/rdb/okinawa/>

動画はコチラ



# 那覇港湾施設移設に関する協議会(第29回)

令和4年10月25日、国（防衛省、内閣府及び国土交通省）と沖縄県、那覇市、浦添市及び那覇港管理組合で構成する「那覇港湾施設移設に関する協議会（第29回）」がオンラインで開催されました。

本協議会は、那覇港湾施設の移設を円滑に進めるため、関係機関において、那覇港湾施設の移設に関連する諸措置を協議するために設置されたものであり、平成13年度から開催されているものです。

今回の第29回移設協議会においては、防衛省から、令和4年3月に開催された第28回移設協議会において示した那覇港湾施設代替施設

の位置及び形状案を基に検討した防波堤の位置及び形状案について説明を行い、那覇港管理組合から、民港形状案と、防衛省が示した防波堤も含めた代替施設の位置及び形状案との整合の確認の結果について説明がありました。

それらを踏まえ、各構成員は、防衛省が移設協議会で示した代替施設の位置及び形状案に基づいて、日米合意に向けた米軍との調整作業を進めることを確認しました。また、移設を円滑に進められるよう、引き続き協議会の構成員の間で密接な調整を行っていくこととしました。

今後とも、那覇港湾施設の返還に向けて、地元の方々にもしっかりと説明しながら、引き続き、全力で取り組んでまいります。

※図中の赤線は既定計画

## 那覇港湾施設代替施設の検討図

- ■ ■ : 現行の港湾計画に位置づけがあるが、変更する箇所
- ■ ■ : 新たに位置づける箇所



※浦添ふ頭地区における民港の形状案に代替施設の形状を追記したものの

# 令和4年度日米共同統合演習（キーン・ソード23）

令和4年11月10日～19日、自衛隊の即応性及び日米の相互運用性の向上を目的として、令和4年度日米共同統合演習（キーン・ソード23）が実施されました。

沖縄県内においては、各駐屯地や在日米軍施設における連絡調整所の設置訓練や医療拠点の開設、患者後送訓練のほか、中

城湾港においてPFI船による部隊輸送訓練、与那国島において航空自衛隊の輸送機による装備品輸送訓練が実施されました。

中城湾港や与那国島での訓練に際しては、訓練の円滑な実施のため、沖縄防衛局職員が関係機関との連絡・調整の支援を行いました。

沖縄防衛局としましては、このような訓練を通じて、あらゆる事態に即応するための抑止力・対処力を強化するとともに、日米の

強固な意思と連携を示すことで、我が国の防衛及び地域の平和と安全の確保に寄与してまいります。また、地元自治体等の皆様への丁寧な説明や情報提供を行ってまいります。



与那国島内でのMCV（機動戦闘車）自走風景



中城湾港における、PFI船舶（はくおう）停泊風景

## 当局担当者の声

連絡調整課長の本田です。



キーン・ソードは、自衛隊とアメリカ軍が参加し、全国で総勢3万人を超える人員が参加する大規模な統合演習です。この演習においては、各種事態に備えて、自衛隊の活動に必要な装備品や補給品の輸送能力向上のために、自治体が管理する港湾を含めて訓練を行うこととなり、中城湾港や与那国空港を使用し装備品の輸送を行いました。

これら港湾や空港の使用にあたっては、当局からも自分をはじめ職員を現地に派遣し、特に、装備品の輸送に伴う周囲への安全の確保について注意を払いつつ、関係機関との連絡・調整の支援を行ったところ、これによって円滑な訓練の実施に寄与することができたと思います。



地方協力確保室の古川です。

わが国を取り巻く安全保障環境が厳しさを増す中、訓練等を通じて、平素から各隊員及び各部隊が常に高い練度を維持することはわが国防衛の任務を果たすために重要です。今回のキーン・ソードでは、グレーゾーン事態から武力攻撃事態等における一連の状況を想定し、自衛隊の運用要領及び日米共同対処要領を演練しました。

今回の訓練に限ったことではありませんが、各種訓練の実施に当たっては、地元の皆様への丁寧な説明と情報提供が不可欠です。例えば、訓練の時間帯や場所について地元の皆様に極力影響が生じないための配慮といった、訓練による影響の局限と、実効性のある訓練の両立を目指して業務に取り組んでまいります。

# 災害準備及び災害対応のための在日米軍の施設及び区域への限定された立入りについての現地実施協定等の署名式典



各地元自治体代表者：左より仲間金武町長、仲松北谷副町長、松川宜野湾市長、大城浦添副市長

令和4年11月7日、キャンブ瑞慶覧米海兵隊司令部において、米海兵隊太平洋基地司令官と各自治体との間における災害準備及び災害対応のための現地実施協定締結の署名式が行われました。

当該現地協定書は、2011年に発生し、東北地方を中心に未曾有の災害をもたらした東日本大震災を契機に、在沖米軍と基地に隣接する各市町村との間において、津波などの自然災害時に、基地内を通過し避難することを可能にするため締結されたもので、5年毎に更新しております。

署名式には、米海兵隊太平洋基地司令官



リズウスキー司令官

ハイサイ。海兵隊太平洋基地司令官のリズウスキー少将です。この度、大切な各地域のリーダーの皆様と地元実施協定書に署名できたことを光栄に思います。

協定を結ぶことにより、避難の際、地域住民が我々の施設を通過することが可能となり、共に災害時に備え、沖縄県民の安全を確保するための協定が実現します。地元実施協定書に署名をすることで、米海兵隊は基地所在地の地域社会とのパートナーシップを強固なものとなります。災害への備えは共同責任です。皆様は、海兵隊は自然災害が発生したら今すぐにも、そして将来においても即対応する用意があることを確信していただきたく存じます。我々も居住しているこの地域社会の一員として貢献し続け、引き続き沖縄の皆様からの信頼と信用を高めるために、今後も努力して参ります。

官ステイブン・リズウスキー少将、仲間金武町長、仲松北谷副町長、松川宜野湾市長、大城浦添副市長をはじめ、多くの関係者にご参加いただき、各代表者より、災害時における避難体制構築の必要性や災害対策の一環である日米合同避難訓練の意義など、日米間における協力体制の一層の強化の重要性について、ご挨拶いただきました。

発生の予見が困難である災害等への常日頃からの備えは、非常に重要なものであり、沖縄で生活する全ての人の生活の安全確保のため、今後とも関係者一同、尽力してまいります。



災害協定に署名するリズウスキー司令官と各地元自治体代表者

# 令和4年度 防衛大臣感謝状の贈呈について

防衛省においては、例年、11月1日の自衛隊記念日に合わせて、防衛省・自衛隊の活動や事務の遂行に著しい功労があった方に対して、防衛大臣より感謝状を贈呈しています。今年度、沖縄防衛局管内においては、防衛施設の安定的使用に多大な

御協力を賜った松本浦添市長に感謝状が贈呈されました。沖縄防衛局としては、御協力・御理解に深く感謝するとともに、今後とも、引き続き、沖縄の負担軽減に努めてまいります。



小野局長

松本浦添市長

## 松本哲治浦添市長

沖縄県のみならず、日本やアジア全体の平和に役立つよう、これからも精進致します。

# 金武町伊芸区における地震・津波避難訓練について

令和4年11月2日(水)10時、沖縄県広域地震・津波避難訓練が県内全域で一斉に実施され、金武出張所が所在する金武町伊芸区においても、金武町の避難指示に従い、同町が指定する緊急避難場所への避難訓練を行いました。

この避難訓練は、11月5日の「津波防災の日」にあわせて、毎年、沖縄県が大規模地震・津波の発生を想定し、地震・津波に対する防災意識の啓発や防災体制の向上を図ることを目的に実施しているもので、金武町においても各行政区事務所、学校、福祉施設等と連携して毎年実施しているとのこと。

伊芸区では72名の区民が参加し、お互いに声を掛け合いながら避難訓練を行いました。避難場所のさ



避難訓練の様子



シェイクアウト訓練の様子



消火訓練の様子

くまつ公園では、シェイクアウト訓練(身を守る訓練)や防火機材取扱体験などの防災体験訓練も実施され、安富祖区長の「この避難訓練は実際に地震が起きたとき、区民の命を守るための大切な訓練ですので、区民一人一人が防災意識をもち協力して訓練に取り組んでください」との言葉に、参加した区民の皆さんは真剣な表情で消火訓練や災害時などに使用する避難器具の体験訓練などに取り組んでいました。

区民の一員として避難訓練に参加した金武出張所長曰く、ほとんどの区民が避難に要する目標タイム5分以内で避難したことに感心しつつ、私よりも軽やかに階段を駆け上がる年配の方々を見て、自分の運動不足を痛感した1日となりました。

# ～キャンプ・ハンセンにおける 合同津波避難訓練について～



キャンプ・ハンセン渉外官 嘉陽貴幸

在沖海兵隊基地で毎年行われる「コンスタントヴィジュランス(常時警戒訓練)」の一環として、金武町との合同大津波避難訓練を行いました。2014年に金武町及びキャンプハンセン間で結ばれた災害協定に基づき、海抜が低い地域に住む住民や福祉施設の方たちの避難経路として、キャンプハンセンが指定されています。

この訓練では、地域の自主防災組織とキャンプハンセン、そして各関係機関との緊急時の連絡体制の構築や住民の方による避難経路の確認を行いました。訓練を視察したキャンプハンセン司令官マーティン大佐は、「実際に起こりえる災害に備えることは非常に重要です。金武町役場をはじめ金武地区消防本部、石川署そして地域の自主防災組織や住民の方々とキャンプハンセンが、実際に顔を合わせ避難訓練を行うことで災害時の被害を減らし、大切な人を守ることに繋がります。」と述べ、今後も繰り返し合同避難訓練を行う意欲を示しました。



避難訓練の様子



避難訓練の様子



参加者で記念撮影

## はっさい編集後記

今号巻頭で紹介している官房長官訪沖に関して、報道室も微力ながら、その対応に関りを持たせていただきました。

政府機関関係者の訪沖に際しては、そのロジスティック、サブスタンス、必要に応じてプレス対応を関係部署でそれぞれ行っております。

報道室においては、その名のとおりプレス対応を役割分担として担っており、当日の対応はもちろんのこと、事前の調整にも参加させていただきました。

今回は全ての日程が屋内で行なわれたこともあり、天候を気にすることはありませんでしたが、報道機関の取材位置や動線などが行事に影響を及ぼさないよう配慮しつつ、それでいて各報道機関が円滑に取材できるように気配りに努めたところです。

当日は、報道室総出で報道機関の取材位置への案内や面談風景等の写真撮影など行いましたが、毎回同様の対応を行っているにも関わらず、なぜか毎回バタバタしてしまいます。「学んでいない」とご指摘を受けてしまうかもしれません。

今回も何ら問題もなく対応できたのではと思っておりますが、この勝手な思いが「学んでいない」に繋がって行くのかもしれない。

今後とも同様の行事が出てくると思いますが、引き続き、気を引き締めて頑張っていこうと考えています。

(報道室)

## 報道室担当者の声



報道機関に交じって面談風景を撮影



総務部報道室の安里です。

当局における報道機関等の窓口として、日々、報道機関と調整を行っております。

報道機関からの問い合わせ内容を聞き漏らさず、また、当局から誤った説明がないよう、責任をもって対応に努めさせていただいております。

また、当広報誌の編集に携わらせていただいております。先日の官房長官訪沖時には、当広報誌用に、面談風景の写真撮影をさせていただきました。当広報誌を通じて、当局が取り組んでいる業務内容等を、少しでもお伝えできるよう取り組んでまいりたいと思います。